

各位

第14回「日本新薬こども文学賞」 最優秀賞作品決定

日本新薬株式会社（本社：京都市、社長：中井 亨 以下、当社）は、第14回「日本新薬こども文学賞」において、物語と絵画各部門の最優秀賞を含む16点の入賞作品を決定しました。

「日本新薬こども文学賞」は、絵本を通じて、未来を担うこどもたち一人ひとりが夢や希望を持ち、健やかに成長してほしいとの願いから、日本児童文芸家協会の後援を得て、当社創立90周年にあたる2009年に創設したものです。

14回目となる今回は、昨年11月から今年2月まで物語と絵画を募集し、全国から物語1,124点、絵画362点の作品が寄せられました。



絵画部門最優秀賞

「I want to see a rainbow. Just once.」

[画像のダウンロードはこちら](#)

応募作品は、絵本作家の山本省三氏、かさいまり氏、京都精華大学名誉教授の坪内成晃氏、小児科医の細谷亮太氏他3名、計7名からなる審査員によって厳正に審査され、物語部門最優秀賞は、藤田陽一さん（57歳：栃木県在住）の「ゆうちゃんのノート」が、絵画部門最優秀賞には、やぎひさこさん（50歳：茨城県在住）の「I want to see a rainbow. Just once.」が選ばれました。

絵画部門では、本審査とは別に、当社の社員による投票を実施し、佐藤 美千子さん（33歳：愛知県在住）の「猫シェフのおかしなお菓子たち」、ももさん（10歳：滋賀県在住）の「深海魚たちのおしゃべり」の2点を「日本新薬特別賞」として選出しました。

当社では、最優秀賞を受賞した物語をもとに、絵画部門の最優秀賞を受賞した、やぎひさこさんが絵をつけた絵本2万冊を制作し、今年10月の完成を目指します。

できあがった絵本は、全国の小児科医院などの医療機関や公共施設等を通じて、広くこどもたちのもとに届けられるほか、当社のWEBサイトでも閲覧できる予定です。

第14回「日本新薬こども文学賞」受賞作品一覧

物語部門および絵画部門の各入賞作品および作家は、以下の通りです。

【物語部門最優秀賞】藤田 陽一『ゆうちゃんのノート』

消しゴムの消しカスを取り上げたユニークな作品です。捨てるはずのカスをゆうちゃんが残しておく理由が胸にひびきます。「消しカスは心のノート」という言葉も秀逸です。心あたたまる作品で各選考委員からも絶賛され、最優秀賞を受賞しました。

【絵画部門最優秀賞】やぎ ひさこ『I want to see a rainbow. Just once.』

画面全体に現れる深い色彩のなかに、細部で金色を緻密にちりばめた、いくつかのモチーフは、不思議で美しい世界を創っています。古典的だけれど新しく卓越した表現技術は、くり返し眺めても、そのたび新鮮な発見があり、観る側に色々なストーリーを導き出させています。

部門	賞	作品名	氏名
物語部門	最優秀賞	ゆうちゃんのノート	藤田 陽一
	優秀賞 (大人の部)	きょうはあかまる	岩崎 まさえ
	佳 作 (大人の部)	まきおでんち	中村 瑞子
		かぜの子の足あと	かし たづこ
	優秀賞 (こどもの部)	銭湯男子	坪山 朋來
	佳 作 (こどもの部)	ぼくのまほうの虫	浅野 智博
		おもいでゆき	佐渡 権人
	絵画部門	最優秀賞	I want to see a rainbow. Just once.
優秀賞 (大人の部)		ワニパンツ	わび みよ
佳 作 (大人の部)		優しい水面	月井 菜生
		ヒルデさんのひみつのにわ	こうの かなえ
優秀賞 (こどもの部)		すてきなうたごえだね	河畑 杏音
佳 作 (こどもの部)		星がだいすき！ ぼくのガオガオーン！！	増田 隼士
		小さくなってラーメンへ	榎本 朔太郎
日本新薬特別賞		猫シェフのおかしなお菓子たち	佐藤 美千子
		深海魚たちのおしゃべり	もも

受賞作品は、当文学賞 WEB サイト (<https://kodomo-bungaku.jp/>) に掲載しております。

以上